

与布土地域まちづくり計画

好きです ふる里 よふど
創ります ^{あした}未来の よふど



与布土地域自治協議会

平成20年4月

与布土地域まちづくり計画の役割

与布土地域自治協議会では、地域の皆さんで、少子高齢化などがもたらす地域課題を見据え、子どもから高齢者までの全ての方が、将来に向けて安心して暮らせることができ、また、「この与布土に住んで良かった」と思えるような誰もが誇れるまちづくりを進めるため、将来目標を共有し、その目標に向かって実践していくための羅針盤として「与布土地域まちづくり計画」を策定します。

1 経過

この「与布土地域まちづくり計画」は、地域の現状や将来の課題を整理し、その地域課題解決のための方策を、与布土地域自治協議会運営委員会や事業部会ごとにまとめてきました。また、地域の多くの方の意見を計画づくりに反映させるため、小学4年生以上の全住民を対象にアンケート調査を実施しました。

平成19年 8月 3日	運営委員会 策定スケジュール等確認
8月21日	高知市視察研修 地域まちづくり計画策定方法について
9月2日	岡山県西栗倉村視察研修 都市農村交流など地域特性を活かした地域づくりについて
9月14日	運営委員会 全住民アンケート調査実施の決定
11月中旬	全住民アンケート調査の実施
12月9日	京都府綾部市視察研修 集落再生や地域活性化について
12月19日	運営委員会 アンケート調査結果の分析
平成20年 1～3月	運営委員会、事業部会、正副部会長会、区長会、 専門委員会（部会長6名、区長3名、地域支援職員3名） 地域まちづくり計画の検討
3月5日	運営委員会 地域まちづくり計画案素案の確定
3月中旬	地域住民のコンセンサス 地域まちづくり計画案概要版の全戸配布による 意見集約、まちづくりキャッチフレーズの募集
4月11日	地域まちづくり計画案の確定
4月27日	平成20年度与布土地域自治協議会総会 地域まちづくり計画の策定

2 役割

「与布土地域まちづくり計画」は、与布土の地域住民が一丸となって取り組む活動目標を定めたものであり、与布土地域におけるまちづくりの基本となるものです。

「与布土地域まちづくり計画」は、これを取り巻く状況の変化に適切に対応するために、3年ごとの見直し検討を行い、常に、時代の潮流や、地域状況の変化等に対応した計画づくりを目指すことにしています。

現状と課題

1 与布土地域の世帯の状況

平成 19 年 12 月末現在

	55歳以上		65歳以上		独居老人			高齢夫婦 のみ 世帯数	10歳以下		世帯数	合計
	人数	%	人数	%	男	女	計		人数	%		
柁木	72	48.98	55	37.41	0	7	7	6	7	4.76	45	147
溝黒	62	43.66	47	33.10	0	7	7	4	10	7.04	42	142
山歳	151	46.75	106	32.82	4	10	14	21	26	8.05	126	323
喜多垣	35	66.04	22	41.51	2	3	5	3	0	0.00	22	53
迫間	92	53.80	64	37.43	0	13	13	5	10	5.85	57	171
与布土	105	47.95	71	32.42	1	3	4	12	16	7.31	64	219
森	54	56.84	35	36.84	0	2	2	3	6	6.32	31	95
三保	57	51.82	41	37.27	1	7	8	7	9	8.18	41	110
越田	50	46.73	37	34.58	1	4	5	5	5	4.67	33	107
柿坪	50	59.52	34	40.48	0	6	6	6	2	2.38	35	84
計	728	50.17	512	35.29	9	62	71	72	91	6.27	496	1,451

○ 与布土地域高齢化率 35.29%

○ 準限界集落（55歳以上の人口の割合が50%以上） 5区

○ 10歳以下の子どもがいない集落数 1区

2 与布土地域の現状と課題

(1) 全般

- ・安定社会に入り、人々の生活意識が変わるとともに、少子高齢化が到来し、社会構造の変化や経済事情の悪化は地方への逆風となり、あらゆる面で厳しい社会情勢となっています。そのことは、与布土地域においても例外ではなく、様々な課題が山積しつつあります。
- ・この地域に住む私たちは、その現実を知り、それに伴う将来を見据え、未来の子どもたちへ豊かな地域を守り引き継ぐために、今できることから取り組みを始めることが必要となります。

(2) 自然環境

- ・人工林が手入れされず山の荒廃が進み、土砂災害が発生する恐れがあります。また、中山間地域の田畑が放棄され原野化することにより、猪や鹿による獣害が里地に広がり、それに伴い山ヒルの生息範囲も拡大されています。
- ・河川環境の変化により、川に魚などの生き物が少なくなっています。

(3) 農地環境

- ・ 農業経営の不振から、農業後継者が減少している中で、今後、農業者の高齢化によりさらに休耕田が増加することが予想され、ますます農地環境の崩壊につながる恐れがあります。
- ・ 農業経営の効率化を進めるため、優良農地の集積化を促すとともに、団塊の世代の活用とともに農機具等の効率運用を図るなど、農業経営の組織化を推進する必要があります。

(4) 産業の活性化

- ・ よふど温泉の利用者は年々減少傾向にあり、今後は、施設の老朽に伴う維持費の確保や利用者を確保するための特色のある温泉整備が必要となります。
- ・ 与布土地域の特徴を活かした特産品づくりを進める必要がありますが、消費者のニーズにあった商品開発の改善と研究が急がれます。
- ・ 地域の物は地域で消費する地産地消システムの確立により、地域利益の循環を行うことが重要です。

(4) 安全・安心

- ・ 平日の昼間の地域内は高齢者しかいない状況であり、高齢者にとっても、またその家族にとっても地域内の防犯・防災面において不安な状態であるといえます。
- ・ 高齢化が進み、自らで自動車を運転できない人が多くなることが予想され、さらに、公共交通機関の運行の減少等も今後十分に考えられ、買い物・病院等への足の確保が心配されます。
- ・ 通学時の子どもの見守り活動は、現在、老人会を中心に展開されていますが、老人会にかかる負担が非常に大きくなってきています。

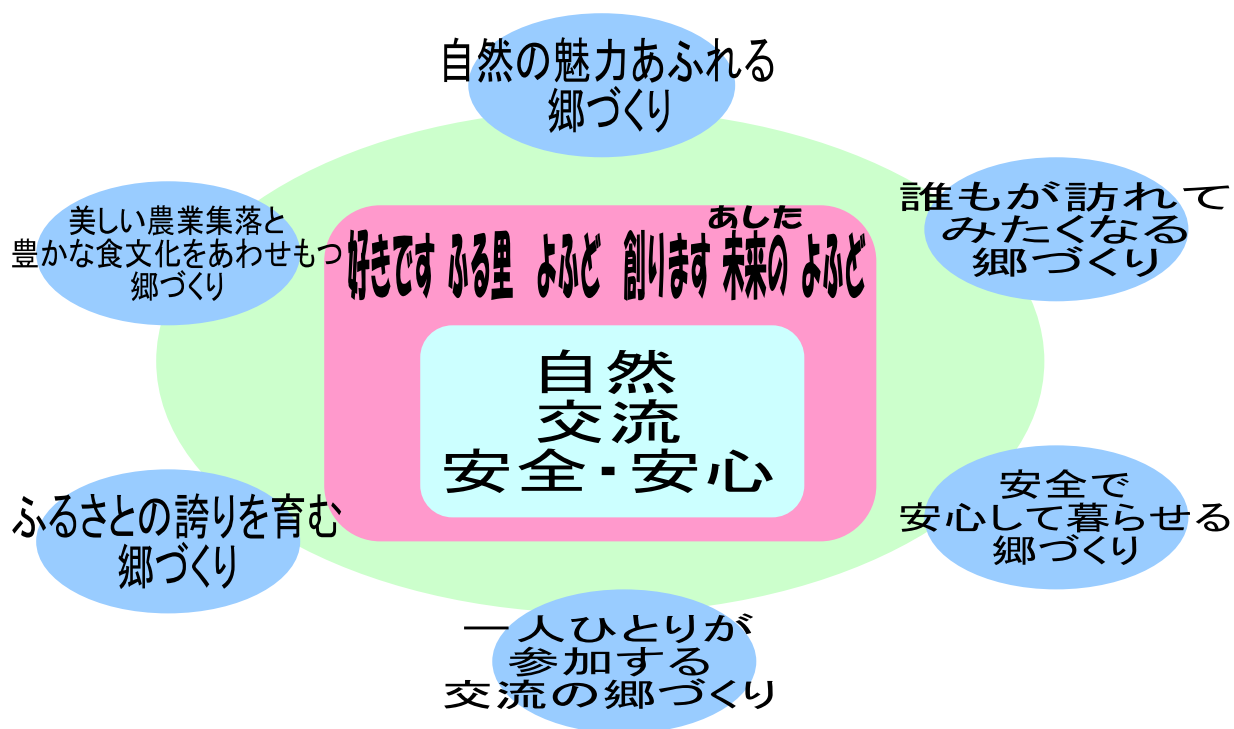
(5) 住民交流

- ・ 少子化により、下校後は子ども同士で遊ぶ機会が少なくなり、家庭でのテレビやゲームに没頭する時間が多くなりつつあります。
- ・ 若い世代の地域行事への関心が少なく、今後、小学校が統合すれば、さらに、与布土地域に対する関心や愛着、地域内の住民同士の交流が薄れていくと想像されます。
- ・ 高齢化が進み、行事の存続や日役などの実施が困難になる地域も発生しつつあります。さらに、少子化により子供会などの行事の運営が区単位ではできなくなってきました。

3 地域住民が望む与布土づくりと「与布土地域まちづくり計画」

アンケート結果から、現在住んでいる人が「住み続けたいと思う与布土づくり」、与布土地域に訪れた人が「住んでみたいと思う与布土づくり」を与布土地域の多くの方が望んでいます。このことは、「住みやすい地域」であることを、誰もが将来において望んでおり、その目標を達成するには、私たち地域の住民はどのようにして地域課題を克服し、住民一体となって解決策を見い出していけばよいかを、この「与布土地域まちづくり計画」に盛り込んでいきます。

与布土地域まちづくり目標



「自然の魅力あふれる地域づくり」と、「人々がともに助け合い、安全で安心な暮らしができる地域づくり」を、みんなが参加してつくりあげることを目指し、また、古き良き伝統文化の継承を図りながら、「温泉を中心とした地域交流や都市との交流」を深め、活力のある与布土の郷づくりを目指します。

施策のあらまし

基本目標Ⅰ 自然の魅力あふれる郷づくり

与布土地域の貴重な自然環境を住民自身が調査・記録・学習して、ふるさとの魅力を再認識し、次の世代に伝え、自然とのふれあい活動を通じて郷土愛を育みます。さらに、山、川、田んぼの自然環境を保全・改善する取り組みで、魅力あふれる自然環境を創ります。

◆ 計画目標1 与布土の自然を調べる・記録する・学ぶ

施策目標 ふるさとの自然の魅力や価値を次世代に伝える

与布土の貴重な自然環境（動物、植物や地質・地形・景観など）を住民自身が調査・記録・学習することにより、ふるさとの魅力や価値、大切さを再認識し、次の世代に伝えます。

短期計画	与布土の貴重な自然環境に関する調査・記録・学習 特別天然記念物オオサンショウウオや絶滅危惧種モリアオガエルなど貴重な生き物、あるいは貴重な植物や樹木、地質・地形・景観などについて、住民自身による情報収集と調査・記録を行い、観察会や勉強会を実施します。
中期計画	調査・記録・勉強会を継続する人材の育成 貴重な自然環境の調査・記録・勉強会を継続すると同時に過去の自然の調査などを行い、記録を整理して「与布土の自然」の発刊をめざします。 同時にそれらの活動を担う人材を育成します。
長期計画	「与布土の自然」の発刊と自然環境保全の仕組みづくり 環境学習や観光マップなどの活かせる「与布土の自然」を発刊し、与布土の子供たちや若い世代を中心とした勉強会を継続するとともに、与布土の自然の魅力を地域外へ発信します。また、自然環境調査を継続する仕組みづくりを行い、同時に学習を通して、工事などの行政施策に対して、与布土の自然を守る立場から提言できるようにします。

◆ 計画目標2 自然とのふれあいで郷土愛を育む

施策目標 ふるさとの大切さを学び自然や命を慈しむ心を育てる

山、川、田んぼの自然の中で貴重な生き物や植物とふれあうことを通じ、ふるさとの自然の大切さを学び、自然や命を慈しむ心を育てます。

短期計画	自然観察会やふれあいイベントの実施 子供たちや住民を対象とした自然観察会やふれあいイベントを実施し、生き物など自然に接する機会をつくります。
中期計画	自然とのふれあい活動を担う人材の育成 自然観察会やふれあいイベントを継続し、活動を担う人材を育成します。
長期計画	自然豊かなふるさとと布土を大切に想う心を育む 与布土の子供たちや若い世代を中心とした、山、川、田んぼの自然に親しむ活動を継続し、自然豊かなふるさとと布土を大切に想う心を育みます。

◆ 計画目標3 魅力ある自然環境を創る

施策目標 山林や河川を環境を改善し、さらに魅力ある自然環境を創る

山林（人工林）や河川などの環境の荒廃を防ぎ、環境の改善に取り組み、川や田んぼに生き物が増えるなど、さらに魅力ある自然環境を創ります。

短期計画	人工林、河川の荒廃を防ぐ方策の検討と実施 人工林の管理に関する研究や現地調査、環境改善のための方策を検討し実施します。また、河川環境（河床や護岸、堰堤、水の汚染、ゴミの投棄など）の調査と清掃活動などの環境改善のための方策を検討し実施します。
中期計画	人工林の間伐、河川環境の改善 人工林の間伐作業をすすめる取り組み、河川環境を改善する取り組みを実施します。それらの取り組みを通じて、活動を担う人材を育成します。
長期計画	災害のない豊かで魅力的な自然環境の創出 山林や河川の環境改善により、景観が良くなり、山林での土砂災害が減り、川に生き物が増え、山を散策したり、川遊びが楽しめる、魅力的な自然環境を創ります。

基本目標Ⅱ 誰もが訪れたくなる郷づくり

地域の温泉であるよふど温泉を中心にやすらぎの空間を創造し、よふど温泉を観光・交流の拠点としながら、産業の活性化を図ります。

◆ 計画目標 1 よふど温泉の周辺施設・景観を整備し、やすらぎ空間を創出する

施策目標 温泉周辺整備による景観整備

よふど温泉の周辺を、自然と調和した整備を行うことにより、やすらぎの空間を創出するとともに、よふど温泉の魅力を高めます。

<p>短期計画</p>	<p>温泉周辺ウォーキングコースを設定</p> <p>地域内の名勝を辿るウォーキングコースを温泉周辺に設定し、マップ、看板、立て札を作成し、地域住民が温泉に親しみ、与布土の自然を親しむ環境を整備するほか、温泉に訪れた人が与布土の自然を楽しむ仕組みを作ります。</p> <p>四季の花回廊づくり</p> <p>保育園から温泉までの道路沿いに四季の花を植栽し、温泉に来られる方を気持ちよく出迎えます。</p> <p>ホテル街道の整備</p> <p>温泉から保育園までの与布土川左岸をホテル街道として安全にホテル観察や散歩できるように整備を行い、地域住民が親しむだけでなく、温泉に来られる方に与布土の自然や四季を感じてもらおう仕組みを作ります。</p>
<p>中期計画</p>	<p>温泉周辺ウォーキングコース（遊歩道）の整備</p> <p>ウォーキングコースに設定した中で、木の実やきのこ狩り、山菜取りなどが楽しめる里山や山林コースを整備し、森林浴を楽しみながら、やすらぎの空間を創出します</p> <p>蓮池、れんげ田、コスモス田の拡大</p> <p>休耕田を活用しながら、花畑の拡大を行い、やすらぎ空間を創出します。</p>
<p>長期計画</p>	<p>宿泊施設や娯楽施設の整備</p> <p>よふど温泉の付帯施設として自炊民宿やバンガローなどの宿泊施設やグランドゴルフ場などのスポーツ施設整備などを検討し、よふど温泉の集客アップにつなげます。</p>

◆ 計画目標2 観光、交流の拠点のよふど温泉づくり

施策目標 人が集い賑わうよふど温泉づくり

よふど温泉を交流の拠点として位置づけ、与布土地域に訪れてみたくなる地域づくりを行い、訪れた人たちと地域の人たちとの交流を深め、地域振興へつなげます。

短期計画	<p>温泉でのイベントの参画</p> <p>集まりたくなる事業、参加したくなる事業の検討を行い、適宜それらの事業を開催します。イベント開催による新たなよふど温泉のなじみ客の確保を行います。</p> <p>効果的な広報活動の協力</p> <p>魅力的で効果的な広報活動を行うことにより、新たなよふど温泉の利用者の確保を行います。</p>
中期計画	<p>イベントの工夫</p> <p>温泉内で開催するイベントの精査を行い、利用者が求めるイベントや、地域住民が温泉に愛着を持つようにします。</p> <p>特徴ある温泉づくり</p> <p>特徴ある温泉づくりにより、なじみ客を増やします。</p>
長期計画	<p>観光と交流の拠点づくり</p> <p>与布土ダムの建設に伴い、ダム及びよふど温泉を一体的にとらえ、人が集い、交流を深めることが出来る、観光と交流の拠点として整備を行います。</p>

◆ 計画目標3 よふど温泉を活かした産業振興を図る

施策目標 よふど温泉を拠点とした販売システムの確立

よふど温泉を拠点とした販売システムの確立を行い、活力あるよふどづくりを行います。

中期計画	特産品の販売システムの確立 特産品と地域イメージと温泉イメージを合致させ、特産品と温泉とを一体的に売り出すシステムを確立します。
長期計画	農産物等販売諸施設の整備 温泉施設内の土産物売場の改善と農産物等の特産品売場の一本化を行います。 観光農園・貸農園の拡大 農地の有効活用を図るとともに、団塊の世代をターゲットにした貸農園システムの確立をします。 交流情報総合システムの構築 朝来市内の観光案内や、市内及び近隣地域のイベント情報、特産品の斡旋・紹介、まほろばや山東自然の家などの近隣施設の案内など、お互いに情報を共有しながら交流情報の総合システムの確立をします。

基本目標Ⅲ 美しい農業集落と豊かな食文化をあわせもつ郷づくり

農地環境を保全することにより、美しい緑あふれる郷にし、特産物づくりをとおして魅力あふれる農業を再構築します。

◆ 計画目標 1 農地を維持管理するための体制づくり

施策目標 農業施設維持管理組織の構築

農地を維持管理する体制を確立し、農地保全を行い、持続可能な美しい農業集落づくりを行います。

<p>短期計画</p>	<p>集落営農組織の模索・検討</p> <p>農地の管理費の有料化の検討を進めると同時に有償作業実施者の確保を図るほか、農機具の共同管理の仕組みづくりや農業を行う作業委託（受託）制度を確立するなど、地域で農業施設を維持管理する組織を構築し、営農組織への移行の検討を行います。</p> <p>また、団塊世代帰農者の増加が見込まれる場合、オペレーター管理システムを構築することを検討します。</p> <p>放棄田の管理体制の検討</p> <p>農地保全のため、地域内の放棄田の管理体制の検討を行います。</p> <p>意識改革の推進</p> <p>地域住民の理解と意識改革を行い、新しい制度をスムーズに導入するため、広報や講習会の開催などを行います。</p> <p>農地・水・環境保全向上対策事業採択に向けての調整</p> <p>平成24年度からの事業採択に向けて、地域全体で調整を行い、維持管理を行う財源の確保と負担軽減について検討します。</p>
<p>中期計画</p>	<p>営農組織の法人化検討</p> <p>組織作りに向け実践的な検討を行うとともに、人材の確保を行います。</p> <p>農地・水・環境保全向上対策事業の実施</p> <p>事業に取り組み、農地保全のための財源確保を行います。</p>
<p>長期計画</p>	<p>集落営農組織の確立</p> <p>集落営農組織（法人化）を設立し、地域全体で農業施設を維持管理する仕組みを確立し、農地保全を行うとともにコミュニティビジネスを実施します。</p> <p>さらに、雇用の確保により、農業後継者の確保を図り人材を育成し、地域人口の確保につなげます。</p>

◆ 計画目標2 元気な農業の復活

施策目標① 販売方法の確立

農産物の販売方法やルートの確立により魅力ある農業の復活を行います。

<p>短期計画</p>	<p>売れる農産物の生産 安全・安心の付加価値をつけた農産物など消費者のニーズを把握し、販売に直結した農産物の生産を行います。</p> <p>地域内における地産地消システムの確立の検討 地域内で生産した農産物を地域住民や南但馬自然学校、やまびこの郷、小学校、保育園、よふど温泉などで消費するシステムを確立し、地域内の農地の有効活用を図るほか、農産物の販売経費の削減を図る方法を検討します。</p> <p>販売ルートの確立の検討 与布土地域にあった販売方法や販売ルートの確立を検討します。</p> <p>農産物情報の発信基地の整備 農産物の情報を消費者に発信することにより、食の安全を明確にするとともに、安定した顧客の確保を目指します。</p>
<p>中期計画</p>	<p>販売ルートや販売方法の確立 契約販売などの安定した顧客の確保や直販所の充実による固定客の確保など販売方法の確立を行い、安定した収益を目指します。</p>
<p>長期計画</p>	<p>安定した販売システムの確立 販売方法等の確立により安定した収益を確保し、魅力ある農業の復活を目指します。</p> <p>拡大生産体制の確立 安定した販売システムを維持するため、生産量の拡大、確保を行い、コミュニティビジネスへつなげます。</p>

施策目標② 魅力ある加工品づくり

地元農産物の地産地消のシステムを確立するとともに、加工品の開発・生産・販売を推進し、安定した収益を図ることにより魅力ある農業への変革を目指します。

短期計画	加工品の研究・開発 生産、加工、販売の3つを与布土地域内で行えるような仕組みを考えながら、地域特性を生かしたオンリーワンの加工品を研究、開発します。
中期計画	加工品の生産・販売 生産・加工・販売の流れを地域内で確立します。
長期計画	安定した販売システムの確立 販売方法等の確立により安定した収益を確保し、魅力ある農業の復活を目指します。

◆ 計画目標3 農業後継者の育成

施策目標 農業従事者の人材育成システムの構築

農業の担い手のバックアップを図り、将来的には集落営農組織の運営を目指すなど、安定した農業経営の確立により、農業従事者を地域で育成することができるとともに、健全な農業集落の維持確保を図ります。

短期計画	啓蒙活動の実施 農業に対する興味、関心を持ってもらうための意識改革につながる啓蒙活動を行います。 子ども対象の農業体験事業の実施 子どもを対象に農作業を体験し、子どもの頃から農業に関心を持つようにします。 農作業の講習会、勉強会等の実施 若い世代を中心に、農作業の講習会、勉強会等を開催し、農業の知識を習得します。 新たな農業の担い手の確保 田舎暮らしやUターン者などが、農業に携わることができる機会づくりを行い、農業の担い手の確保を行います。
中期計画	農作業のサポート体制の検討 農作業に従事しやすい体制を検討するとともに、新たに農業を始める人へのサポート体制の検討をします。
長期計画	農業後継者の育成 農作物と一緒に農業後継者を育てる体制づくりを構築します。

基本目標Ⅳ ふるさとの誇りを育む郷づくり

地域で子どもたちを育み、安心して子育てができる環境を創出するとともに、世代間交流を通して、与布土の伝統文化やふるさとを学び、与布土に誇りが持てるようにします。

◆ 計画目標 1 子育ての拠点づくり

施策目標 安心して子育てができる環境づくり

わくわくキャンプやふれあいサロンなどの地域活動を通して、地域住民のふれあいや信頼関係を育み、地域内で安心して子育てができる環境づくりを整備します。

短期計画	<p>地域教育活動の実施</p> <p>わくわくキャンプやふれあいサロンなどの地域ぐるみで子どもたちを育てていく事業を展開するなかで、世代間交流を通して地域住民のふれあいや信頼関係を醸成します。また、世代間交流を通して、地域の伝統文化などを伝承し、ふるさと与布土の良さを広めます。</p> <p>子育て拠点づくり</p> <p>ふれあいサロンなどを通して、子育ての悩みなどを共有しあいながら安心して子育てができるようにするとともに、活動を通して親世代も一緒に学べる環境づくりを行います。</p>
中期計画	<p>地域教育活動の発展</p> <p>地域ぐるみで子どもたちを育てていく事業を通して、子どもたちの地域参加をすすめます。</p>
長期計画	<p>地域教育活動の発展</p> <p>地域ぐるみで子どもたちを育てていく事業を通して、地域住民相互のふれあいや相互理解を深め、信頼関係を育み、安心して子育てができる環境を整えます。</p>

◆ **計画目標 2 ふるさとを育む**

施策目標 ふるさとと布土を愛し誇れる意識作り

ふるさとを知り、ふるさとを誇りに思い、ふるさとを良くしたい気持ちを育みます。

短期計画	<p>ふるさとをの魅力を知る</p> <p>ふれあいウォーキングなどを通して地域内の史跡や名勝等を知り、地域の魅力を再発見するとともに、世代間の交流を図ります。</p>
中期計画	<p>子どもたちの地域参加</p> <p>ふるさとを良くしたいという気持ちから、自分たちにできることを考え、取り組みます。(ゴミ拾いなど)</p>

◆ **計画目標 3 次世代に繋ぐ与布土の伝統文化**

施策目標 伝統文化・伝統行事の継承

地域の伝統文化や伝統行事を次世代につなぐため、伝え、伝統行事の再編等により行事の存続を行います。

短期計画	<p>伝統文化・行事を伝える</p> <p>伝統文化や伝統行事を多世代で行いながら、地域内へ広く伝え、伝統文化・行事の理解を深める。</p>
中期計画	<p>後世に残したい伝統文化・行事の再編検討</p> <p>後世に残して生きたい伝統文化や行事を洗い出し、それらの統合や再編を行うなど、後世に継承していく方法を検討します。</p>
長期計画	<p>伝統文化・伝統行事の再編・試行</p> <p>地域内で統合や再編を試行し、検証し、最適な継承方法を模索します。</p>

基本目標Ⅴ 安全で安心して暮らせる郷づくり

子どもから高齢者まで誰もが安全で安心して生活ができる、住みやすいよふどづくりをします。

◆ 計画目標 1 高齢者にやさしい地域づくり

施策目標① 高齢者の見守り活動

高齢者やその家族が安心して生活ができるように地域ぐるみで高齢者の見守り活動を行うとともに、活動を通して地域住民相互の交流を図ります。

短期計画	高齢者の見守り活動の実施 高齢者の昼間の見守り活動を検討し、地域全体での取り組みを促進します。
中期計画	日常生活での見守り活動の実施 散歩・ジョギング・ウォーキングなど日常生活の中に見守り活動を取り入れる方法を検討し、実施します。
長期計画	区単位での高齢者の方への見守り活動の実施 区民の意識の向上を目指し、区単位で日常に行える体制づくりを確立します。

施策目標② 高齢者のつどいの場づくり

高齢者のつどいの場を提供し、心身ともに健康でいきいきと生活できる環境の整備を行います。また、高齢者の居場所づくりを展開することで高齢者の家族が安心して仕事ができるようにします。

短期計画	ふれあいサロンづくり 高齢者のつどいの場づくりとしてふれあいサロンづくりを行い、地域住民との交流を深めます。
中期計画	区単位でのふれあいサロンの開設 区公民館等を活用した区単位でのふれあいサロンの検討と開設を行います。
長期計画	子育てと一緒にあったサロンづくり 子育てをする親子と高齢者との交流を深め、子育て環境の向上を図るほか、福祉の拠点づくりを行います。

施策目標③ 高齢者の通院・買物等の足の確保

地域内の移送システムを整備するなど、高齢者の交通手段の確保を行い、通院や買物ができ、安心して暮らせる地域づくりを行います。

短期計画	移送サービス実施に向けての検討 全但バスやアコバスの運行状況等を勘案しながら、移送サービス実施時に向けて方策を検討します。
中期計画	移送サービスの実施 ドアツードアの高齢者に優しい移送サービスを展開します。
長期計画	移送サービスの改善 時代の潮流に併せ、地域住民のニーズに応じた移送サービスに改善し、より効果的・効率的なサービスを実施します。

◆ 計画目標 2 笑顔あふれるまちづくり

施策目標① 通学時の見守り活動

子どもたちの通学時の見守り活動を地域で行い、安全で安心して通学ができるようにします。また、子どもと地域の方々との交流を深め、顔見知りの関係になることにより、子どもに安心感を与えるようにします。

短期計画	老人クラブとの連携による見守り活動 老人クラブの方との連携をとって見守り活動を展開します。
中期計画	あいさつ運動の展開 あいさつ運動を展開し、地域住民同士の交流を深め、顔見知りの関係づくりをします。

施策目標② 明るい通学路の確保

小学校・中学校の通学路の防犯灯を整備し、安全で安心して通学ができるようにします。

短期計画	防犯灯整備必要箇所の把握と設置方法の検討 通学路における防犯灯整備必要箇所の把握と設置方法の検討を行います。
中期計画	防犯灯の設置 協議会と区ごとに防犯灯の設置を行い、明るく、安全で安心な通学路の確保を行います。
長期計画	防犯灯の維持管理 協議会設置の防犯灯の維持管理を行うとともに、常に安全で安心な通学路の確保を行います。

◆ **計画目標3 災害に強いまちづくり**

施策目標 災害時に備えた防災訓練の実施

防災訓練を実施するなど、地域住民の連携と協調が図れる災害に強い地域づくりを展開します。

短期計画	災害マニュアルの作成 災害マニュアルを作成し、地域内で連携が図れるシステム作りを行います。
中期計画	防災訓練の実施 防災訓練を実施し、有事の際の行動がスムーズにできるようになります。

基本目標Ⅵ 一人ひとりが参加する交流の郷よふどづくり

地域の一人ひとりが自分ができることで地域づくりに参加（活動・学習・理解など）することにより、地域住民相互の交流と相互理解を深めるとともに、誰もが顔見知りの親しみあるよふどづくりをめざします。また、地域内外へ地域情報を発信し、情報共有を図るとともに、新たな居住者の確保につなげます。

◆ 計画目標 1 地域コミュニティの再構築

施策目標① 地域内への地域情報発信による一体感の醸成

地域内への情報発信を行うことにより、協議会の活動を周知するとともに、情報の共有を図り相互理解を深めます。

短期計画	よふど通信の発行 よふど通信を発行し、地域情報や協議会の活動を地域住民に広く周知し、協議会活動への関心を深めます。 防災無線を活用した地域情報の発信の検討 最新の地域情報を発信する方法として防災無線の活用を検討します。
中期計画	防災無線を活用した地域ニュース放送 定刻に音声により地域ニュースを発信することにより、更なる地域内の一体感を醸成します。
長期計画	CATVを活用した地域ニュースの検討 定刻に画像による地域ニュースを発信することを検討します。

施策目標② 住民交流イベントの充実と若い世代の結束力の強化

住民交流イベントを充実させることにより、住民相互の交流を深めます。また、若い世代の地域への愛着心を醸成します。

短期計画	住民交流イベントの開催 恒例の地区運動会を開催し、住民相互の交流を深めます。 若い世代の地域づくり組織の検討 若い世代が地域参加のできる機会を設定するなど、若者の活動組織を支援する策を検討し、若い世代における地域への愛着心を醸成します。
中期計画	住民交流イベントの再編 若者の活動組織による住民交流イベントの企画、運営により、地域参加の楽しさを知り、更なる地域参加を促します。また、地区運動会に変わる高齢化に対応した住民交流イベントを再編し、実施します。

施策目標③ スポーツを通じた住民交流の強化

スポーツ活動を通して、住民相互の交流を図ると共に、健康増進を図ります。

短期計画	住民交流の支援 住民交流の支援を進める中で、各自の健康と体力の増進を図ります。また、若い世代のクラブ活動を発足させ、世代間交流を図ります。
中期計画	クラブの自主運営 補助金に頼らずクラブの自主運営を進めるとともに、家族会員を募り、多様なスポーツ教室などを開催します。
長期計画	専任スタッフの育成 スポーツクラブ21の専任スタッフを育成し、クラブの充実を図ります。また、専任スタッフによる健康教室の開催を行います。

◆ 計画目標2 与布土の魅力を地域外へ発信

施策目標① ふるさと与布土の魅力を発信

出身者へふるさと与布土の再認識をし、Uターン者の確保へつなげるほか、魅力ある地域情報を発信することにより、新たな交流人を発掘します。

短期計画	<p>よふど通信の活用</p> <p>出身者へ「よふど通信」を郵送し、与布土地域の現況など地域情報を提供します。また、協議会の活動協力金の納付を兼ねた定期購読者を募り、活動資金の確保だけでなく、地域情報を常に発信しふるさと与布土を再認識してもらいます。</p>
中期計画	<p>メールマガジン通信の発行</p> <p>地域外の方へ、メールマガジン通信を定期的に発行し、地域情報を発信します。</p>
長期計画	<p>ホームページの充実</p> <p>地域の特産品販売がインターネットでできるようにホームページを改良し、その充実を図ります。</p>

* メールマガジン 電子メールを利用して発行される雑誌。発行者が購読者に定期的にメールで情報を届けるシステムのこと。

施策目標② ふるさと小包の発送

与布土地域内の特産品でふるさと小包をつくり、地域外の方へ地域情報を小包とともに発信します。

短期計画	<p>ふるさと小包の検討</p> <p>ふるさと小包の制度や販売方法の検討を行います。</p>
中期計画	<p>ふるさと小包の販売方法の確立</p> <p>ふるさと小包の販売までの流れを確立し、ふるさと小包と一緒に地域情報を発信します。また、地域内の方へ広く周知し、定期（お中元・お歳暮）利用の協力を依頼をします。</p>
長期計画	<p>ふるさと小包制度の充実</p> <p>定期（お中元・お歳暮）の販売以外の制度を検討し、特産品の販売促進や地域内の雇用確保につなげます。</p>

◆ **計画目標3 地域内の人材を活用した生涯学習の充実**

施策目標① 生涯学習システムの構築

生涯学習システムを構築するとともに、自主活動を促す情報の提供や学習の機会の提供などを行い。一人ひとりがいきいきとした生活が送れるようにします。

短期計画	講座の開設 地域住民のニーズに応じた講座を開設し、学習の機会を提供するとともに住民相互の交流を図ります。
中期計画	講座の充実と自主活動支援 講座を充実させるとともに、自主活動を支援します。
長期計画	自主活動の充実 地域内の自主活動の充実を図り、学習の成果が地域活動へ還元できる仕組みをつくります。

施策目標② 地域リーダーの育成

地域活動や講座等の学習活動を通して地域リーダーを育成します。

短期計画	人材バンクの活用 人材バンクを整理し、情報を共有化することにより、地域内の人材を有効的に活用します。
中期計画	地域リーダーの育成 学習の成果を地域活動に活かせるよう活動の場を提供し、人材を育成します。
長期計画	地域活動のノウハウの共有 地域活動している者同士で、情報共有を図り、問題点を解消するほか、ノウハウを地域の財産として繋いでいくシステムづくりをします。

◆ **計画目標 4 住みやすい居住地の提供と住民交流**

施策目標 新たな居住者の増加による活力あるまちづくり

定住促進を図り、UターンやIターンなど新たな居住者の確保を図り、活力ある地域を目指します。

短期計画	居住地の確保と受入れ体制づくり 住宅地の新設を推進し、新たな居住者を受け入れる環境を整えます。また、地域内の空地・空家情報を把握し、的確に情報発信を行います。
中期計画	新たな居住者への支援 新たな居住者との交流を深め、住みやすい地域になるように地域でのバックアップ体制を整えます。
長期計画	新たな地域自治の担い手へ 新たな居住者も地域の一員として、地域自治の担い手になるよう人材を育てていきます。